

令和7年度事業報告



2025 大阪・関西万博「国際赤十字・赤新月運動館」



日本赤十字社佐賀県支部
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

日本赤十字社佐賀県支部事業報告

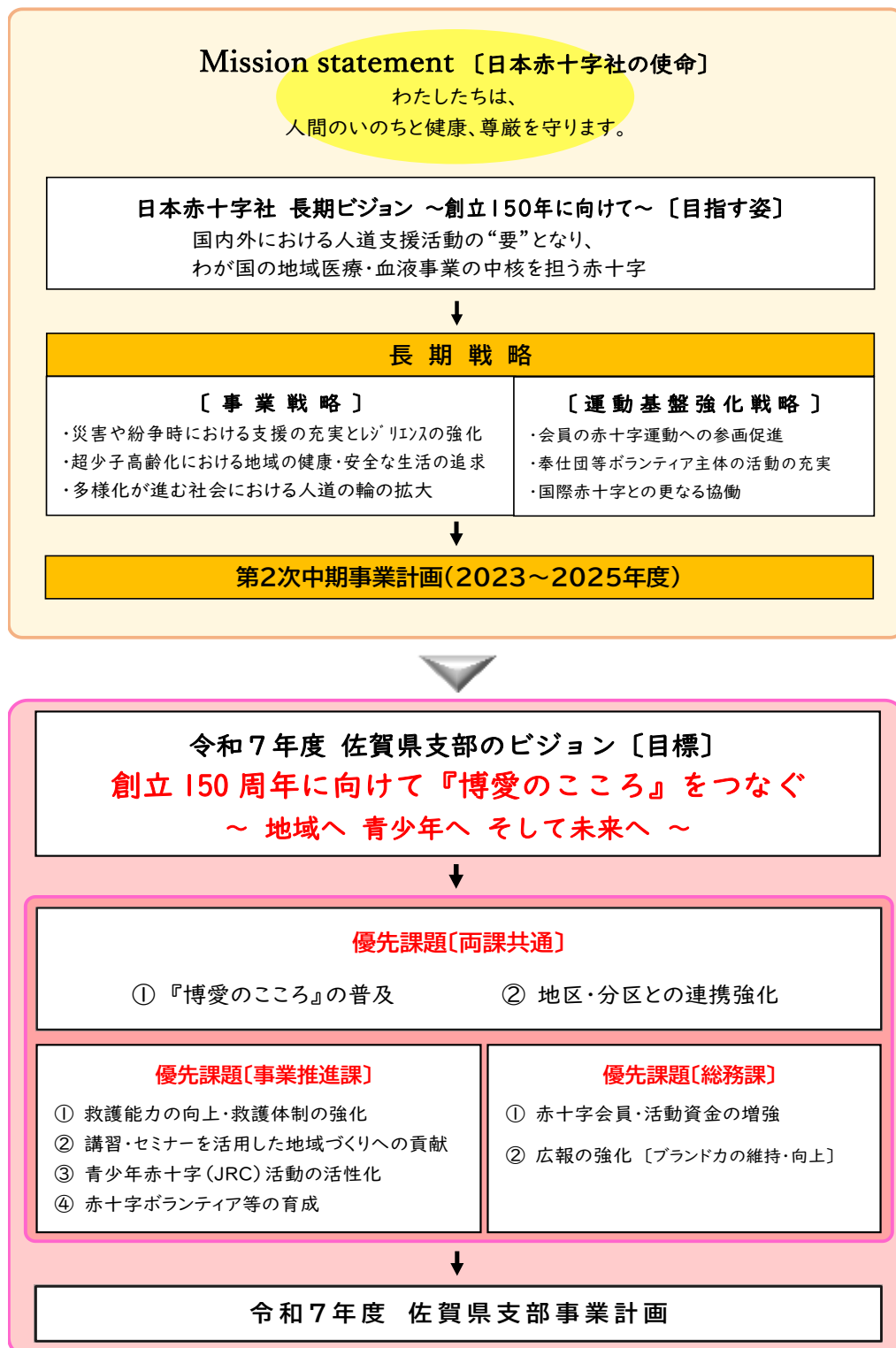
□ 令和7年度 佐賀県支部のビジョン（目標）	1
□ はじめに	2
1 災害救護活動	4
2 国際救援活動	14
3 救急法等の講習普及	18
4 赤十字奉仕団活動	22
5 青少年赤十字（J R C）活動	28
6 赤十字思想の普及と広報活動	36
7 赤十字会員及び活動資金の増強	41
8 支部評議委員会の開催	44
□ 佐賀県支部の組織・役職員	45
□ 日本赤十字社佐賀県支部の現勢	49

令和7年度 佐賀県支部事業報告

赤十字事業の推進につきましては、赤十字関係者をはじめ多くの県民の皆さまからご支援ご協力を賜りまして、心より厚くお礼申し上げます。

令和7年度は、創立150周年に向けて『博愛のこころ』をつなぐ ～地域へ 青少年へ そして未来へ～のビジョン（目標）のもと、各事業を実施しましたので、ご報告いたします。

令和7年度 日本赤十字社佐賀県支部のビジョン（目標）



はじめに

令和7年度の佐賀県支部の主な取り組みと成果は以下のとおりです。

I 救護能力の向上・救護体制の強化

頻発化・激甚化する自然災害や南海トラフ地震等の大規模災害に備え、救護体制の強化と救護員の能力向上に取り組みました。特に、南海トラフ地震を想定した九州ブロックによる広域救護訓練を初めて実施したほか、防災関係機関との研修会等を通じて連携体制の強化を進め、迅速かつ効果的な災害対応力の向上に努めました。

II 講習・セミナーを活用した地域づくりへの貢献

健康で安全に暮らせる地域づくりを目指し、各講習やセミナーを実施するとともに、ICTの活用や地域包括ケア事業、多様性社会に対応した取り組みを進め、いのちと健康を守る知識・技術の普及に努めました。また、講習事業を支える人材育成にも取り組み、本県初となる水上安全法のボランティア講師の誕生や幼児安全法指導員の養成など、講習普及体制の充実を図りました。さらに、救急法等各種講習や防災セミナーのニーズの増大に対応するため同様の活動を行っている自衛隊等との連携の在り方について検討を進めました。

III 『博愛のこころ』の普及と青少年赤十字(JRC)活動の活性化

日赤創設者・佐野常民が唱えた『博愛のこころ』を次世代へつなぐため、青少年赤十字(JRC)活動の推進に取り組みました。リーダーシップ・トレーニング・センターや指導者研修会、街頭募金活動等を通じて、青少年の主体性や奉仕の心を育むとともに、学校現場での防災教育の充実を進め、JRC活動に取り組む学校の拡大につなげました。

IV 赤十字会員・活動資金の増強

人口減少や少子高齢化、物価上昇で会費減少が見込まれる中、財源確保は喫緊の課題です。新たに、自治体職員への職域募集を開始するとともに、建設業協会等をはじめとする各種団体への協力要請を行いました。併せて、新規法人開拓や遺贈・相続財産、生前整理寄付の周知を進め、社資の増強に取り組みました。

V 赤十字ボランティア等の育成

赤十字奉仕団は、人道・博愛の精神のもと、災害救護支援や講習普及、青少年赤十字活動、地域福祉活動など幅広い分野で活動を展開しました。また、大阪・関西万博の「国際赤十字・赤新月運動館」での活動をはじめ、防災・減災活動や街頭募金、地域での支援活動等に取り組むとともに、研修交流会等を通じて奉仕団相互の連携強化と人材育成を推進しました。

Ⅵ 地区・分区との連携強化

日赤の多岐にわたる事業推進のため、支部と地区・分区が一体となり、5月の赤十字運動月間を中心に『博愛のこころ』の普及啓発を展開しました。併せて、研修会や情報共有会を実施し、顔の見える関係づくりと連携強化に取り組みました。

Ⅶ 広報の強化〔ブランド力の維持・強化〕

赤十字事業への理解促進に向け、地域イベントへの参画や広報紙、ホームページ、SNS、マスメディアを活用し広報強化に努めました。また、大阪・関西万博の「国際赤十字・赤新月運動館」の情報発信を通じ、ブランド力の向上を図りました。

□事業内容

Ⅰ 災害救護活動

災害救護は、日本赤十字社の第一義的な事業です。大規模災害等の非常災害時における医療救護活動をはじめ、火災等による災害に対しても被災者支援を実施しています。

令和7年度も佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターで構成する「災害救護委員会」を通じて、3施設の緊密な連携及び救護体制の強化を図りました。

さらに、南海トラフ地震を想定した九州ブロックによる広域救護訓練を初めて実施したほか、防災関係機関との研修会等を通じ、関係機関相互の連携強化に取り組みました。加えて、災害対策本部運営訓練や常備救護班要員研修会、救護班主事研修会等を実施し、迅速かつ効果的な救護活動に必要な実践能力の向上に努めました。

(Ⅰ) 救護体制の強化

ア 日本赤十字社佐賀県支部災害救護委員会

佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの県内3施設が、これまで以上に密な連携体制を構築し、救護体制の強化を図るために令和5年度に設置した「日本赤十字社佐賀県支部災害救護委員会」を開催し、災害救護に関して即時解決が必要な課題だけでなく、救護人材の育成など中長期的な視点からの課題に対しても協議し、解決に努めました。

・第8回：4月18日（金）

・第9回：12月12日（金）

主な協議事項

○関係機関との協働について

消防・警察・自衛隊等の実働機関や保健医療福祉分野の各団体との連携を強化し、訓練や研修に積極的に参加しました。

○「令和7年度日本赤十字社佐賀県支部事業計画」について

災害救護に関する令和7年度の事業計画を、災害救護委員会の協議を経て決定しました。

イ 日本赤十字社佐賀県支部防災業務計画の修正及び第6ブロック大規模地震対応計画の修正

地震防災対策の推進に関する特別措置法に基づく政府の基本計画の変更等に基づいて、防災業務計画を修正しました。また、「南海トラフ地震」「首都直下地震」「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震」については、日本赤十字社第6ブロック（九州）としての対応計画を修正するとともに、南海トラフ地震において特に甚大な被害が予想される大分県・宮崎県は当支部を含めた第6ブロック全体で被災県を支援することを確認し、佐賀県支部は大分県を重点支援することとしました。

ウ 救護班の編成

日本赤十字社は、災害等に医療救護が必要な場合に迅速に救護班の派遣ができるよう「常備救護班」を編成しています。

本県支部関係の常備救護班は、5 個班（唐津赤十字病院 4 個班、佐賀県赤十字血液センター 1 個班）30 人で編成しています。

救護班編成基準と要員数

区 分	医師	看護師長	看護師	主事	計
1 個班の編成基準	1 名	1 名	2 名	2 名	6 名

エ DMA T の編成

「DMA T」とは Disaster Medical Assistance Teams の頭文字をとった略称で「災害急性期に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム（災害派遣医療チーム）」です。

厚生労働省が阪神淡路大震災を教訓に、災害拠点病院内に「日本 DMA T チーム」を編成し、大地震及び航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に派遣し超急性期の救急医療を担うことを目的に編成しています。

唐津赤十字病院では、日本 DMA T 3 チーム（1 チーム：医師 1 名、看護師 2 名、主事 1 名）を編成し、東日本大震災や熊本地震の際に出動したほか、各種訓練や研修に参加しています。

なお、佐賀県と日赤佐賀県支部（唐津赤十字病院）は平成 21 年 4 月 1 日に「災害派遣医療チーム指定病院」としての協定を締結しています。



（２）個々の救護員の能力向上

ア 日本赤十字社佐賀県支部災害対策本部要員研修会

令和元年、3 年、5 年の豪雨災害において被災地県支部として災害対策本部を運営した経験や反省を引き継ぐとともに、今後起こりうる災害の対応を円滑に行うため、支部職員 8 名を対象に災害対策本部要員研修会を実施しました。

・日 程：5 月 1 日（木）

○ 研修内容

- ① 災害対策本部の体制と役割
- ② 時間別にみる本部運営
- ③ 日本赤十字社熊本県支部 災害時の活動事例
- ④ 支援と受援
- ⑤ 本部運営
- ⑥ 本部における情報収集と活用
- ⑦ 時系列活動記録（クロノロジー）
- ⑧ 全体統括部門の業務
- ⑨ 日本赤十字社佐賀県支部災害マニュアルの説明



イ 常備救護班要員研修会【2 部制】（主催：日本赤十字社佐賀県支部）

令和 3 年度より実際の救護活動を踏まえて施設ごとに対象職員を 2 部に分け、救護活動の経験と最新の知識・技術を取り入れながら、より実践的で充実した研修を実施しました。

なお、本研修内容については、最新の知見を研修に反映させるため、支部・病院・センターに所属する多職種からなる災害救護員会にて協議しました。

【第1部】

- ・ 主な内容：応急対応に係る救護班要員としての基礎訓練
- ・ 対 象：唐津赤十字病院及び佐賀県支部の救護班要員
- ・ 日 程：5月31日（土）～6月1日（日）
- ・ 場 所：唐津赤十字病院 佐野講堂、唐津市相知天徳の丘社会体育館

唐津赤十字病院及び佐賀県支部の救護班要員32名及び訓練スタッフ等17名の総勢49名が参加しました。

○ 研修内容

- ① 日本赤十字社の救護活動及び体制
- ② 救護班の活動
- ③ 救護体制と救護班
- ④ 時系列活動記録（クロノロジー）
- ⑤ 災害診療記録・J-SPEED
- ⑥ トリアージタグの記載方法
- ⑦ 職種別演習（医師・看護師：トリアージ（START・PAT）、主事：災害時の通信）
- ⑧ 避難所における活動
- ⑨ 救護所における活動
- ⑩ 災害救護の実際
- ⑪ 基礎行動
- ⑫ 救護所設営デモンストレーション
- ⑬ 救護シミュレーション
- ⑭ 避難所アセスメント



救護シミュレーション

【第2部】

- ・ 主な内容：支部災害対策本部運営及び本部支援
- ・ 対 象：佐賀県赤十字血液センターの救護班要員
- ・ 日 程：6月23日（月）
- ・ 場 所：日本赤十字社佐賀県支部 2階会議室他

佐賀県赤十字血液センターの救護班要員6名及び訓練スタッフ5名の総勢11名が参加しました。支部支援要員を念頭に支部の災害対策本部体制や一市民としての防災対策について学びました。

○ 訓練内容

- ① 日本赤十字社の救護活動及び体制
- ② 災害対策本部の体制と役割
- ③ 災害への備え
- ④ 本部における情報収集と活用、災害時の通信
- ⑤ 時系列活動記録（クロノロジー）
- ⑥ 支部施設紹介



ウ 災害看護論研修

唐津赤十字病院看護師13名、運営スタッフ（唐津赤十字病院、日本赤十字社佐賀県支部）8名、の総勢21名が参加しました。救護活動に必要な知識・技術・態度を身につけ、災害時の看護実践能力を養うことを目的に実施しました。

- ・ 日 程：10月24日（金）～25日（土）

・場 所：唐津赤十字病院

○ 研修内容

- ① 災害の定義、種類と健康障害
- ② 災害医療の特徴
- ③ 災害と情報
- ④ 災害看護の定義と役割
- ⑤ 災害看護の特徴と看護活動
- ⑥ 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護
- ⑦ 被災者特性に応じた災害看護
- ⑧ 災害とこころのケア
- ⑨ 救急法の復習
- ⑩ 国の災害対策と日本赤十字社の救護活動
- ⑪ 最近の災害救護活動の現況と課題
- ⑫ 出動命令が出されたら
- ⑬ 基礎行動、トリアージタグの記載方法
- ⑭ エアテントを使用した救護所設営の手順確認について
- ⑮ 救護倉庫と資器材の確認
- ⑯ 救護活動時に使用する通信手段について
- ⑰ 災害救護シミュレーション



エ 救護班主事研修会（主催：日本赤十字社佐賀県支部）

日赤救護班要員の主事の業務は、平時の通常業務と異なるにも関わらず複雑で多岐に渡るため、災害時、被災地でスムーズかつ効果的に活動を行うには、事前の研修や訓練が欠かせません。その主事に特化した研修会を令和2年度から開催し、今回6回目を開催しました。唐津赤十字病院9名、佐賀県赤十字血液センター2名の主事11名並びに訓練スタッフ等9名の総勢20名が参加しました。

- ・ 主な内容：主事に必要な知識、技術、態度を習得すること
- ・ 対 象：救護班要員の主事職に任命される職員
- ・ 日 程：2月28日（土）
- ・ 場 所：唐津赤十字病院 佐野講堂他

○ 訓練内容

- ① 赤十字の災害救護活動について（歴史・法的根拠）
- ② 赤十字救護班員としての行動規範・心得
- ③ 救護班要員としての主事とは
- ④ 救護活動時に使用する通信手段について
- ⑤ 無線・衛星携帯電話の使用方法について
- ⑥ 基礎行動
- ⑦ エアテントを使用した救護所設営の手順確認について
- ⑧ 情報管理（クロノロジー）について
- ⑨ EMISの取り扱いについて
- ⑩ 出動準備～活動～撤収（机上シミュレーション）
- ⑪ 医師等から見た主事について



オ こころのケア研修（唐津赤十字病院 12月5日(金)）

唐津赤十字病院看護師14名、唐津赤十字病院事務1名、佐賀県赤十字血液センター1名、指導者5名の総勢21名が参加し、救護活動におけるこころのケアについて必要な知識・技術・態度を身につけ、災害時の実践能力を養うことを目的に実施しました。

○ 研修内容

- ① 災害時のストレス反応
- ② こころのケア活動の流れと実際
- ③ 被災者へのこころのケア
- ④ こころのケアの実際（グループワーク/ロールプレイ）
- ⑤ セルフケア

カ 令和7年度日本赤十字社九州八県支部合同災害救護訓練(宮崎 12月7日(日)～8日(月))

日本赤十字社防災業務計画第2章第2節第5の2に基づいて、日本赤十字社第6ブロック（以下、6Bと言う。）管内の宮崎県における地震発生（南海トラフ地震）を想定し、宮崎県支部災害対策本部（以下、被災地県支部と言う。）の初動時の各種事態への迅速かつ適切な対応に繋げることを目的に訓練を実施しました。また、6B各県支部による被災県支部の支援に係る各連絡・調整等における具体的な行動を検証し、被災県支部災害対策本部機能及び6B各県支部による支援体制の充実・強化を図ること、並びに「日本赤十字社第6ブロック南海トラフ地震対応計画」及び「日本赤十字社宮崎県支部南海トラフ地震受援計画」の検証を行いました。佐賀県支部より運営・コントローラーとして3名が参加しました。

キ 全国（ブロック）赤十字救護班研修会（福岡 1月31日（土）～2月1日（日））

救護班要員が災害救護活動を実施する法的根拠や指揮命令系統、日赤内外の組織との連携の必要性などの知識を向上させるとともに、応急対応期における医療ニーズに対応可能な技術を習得することにより、今後において発生が予測されている南海トラフ地震などの大規模災害における日本赤十字社の災害対応能力の強化とブロック内の連携強化を目的に、受講者として唐津赤十字病院と日赤佐賀県支部より救護班1班（8名）、指導スタッフ等として唐津赤十字病院より6名、佐賀県支部より4名、佐賀県赤十字血液センターより1名が参加しました。

ク こころのケア指導者養成研修会（本社 11月23日（日）～24日（月・祝））

救護活動の重要な柱の一つである災害時におけるこころのケア活動を実践する救護員の指導者を養成する研修会に唐津赤十字病院看護師1名が参加しました。

ケ 日赤災害医療コーディネート研修会（本社 8月30日（土）～31日（日））

（本社 9月26日（金）～27日（土））

（本社 11月1日（土）～2日（日））

日赤災害医療コーディネートチームの活動能力向上を目的にチーム要員を養成する研修に唐津赤十字病院医師1名が受講者として、唐津赤十字病院医師1名、事務1名、日赤佐賀県支部1名がスタッフとして、参加しました。

コ 救護員としての赤十字看護師フォローアップ研修

（唐津赤十字病院 9月19日（金））

救護員として登録した看護師のうち、一定期間経過した看護師13名に対して、改めて赤十字救護員の役割を理解し、災害の状況に応じた看護活動が実践できる看護師の育成を目的に実施しました。

○研修内容

- ① 救護員としての赤十字看護師の育成に関する取り組み
- ② 日本における災害対策および日本赤十字社の災害救護活動
- ③ 災害サイクルに応じた看護活動
- ④ 災害時における感染制御
- ⑤ 災害の特性に応じた救護活動
- ⑥ 災害時の遺体の対応（こころのケア）
- ⑦ 被災者特性に応じた看護活動（グループワーク）

（３）防災関係機関との連携の強化

ア 佐賀県原子力防災訓練（10月5日（日））

唐津赤十字病院より20名が参加し、県や長崎大学と協働して、傷病者受け入れ・処置訓練を行いました。佐賀県支部では、佐賀県原子力災害対策本部との情報伝達訓練を行いました。

イ 航空機事故総合訓練（佐賀空港、10月19日（日））

佐賀県支部2名、佐賀県赤十字血液センター1名に加え、唐津赤十字病院より救護班1個班（6名）が参加し、DMA Tや消防等の関係機関と協働して、「通報訓練」、「トリアージ地区・救護所等設置訓練」「トリアージ・救護訓練」を実施しました。



ウ 九州地方非常通信訓練（9月2日（火））

佐賀県支部1名、唐津赤十字病院1名が参加し、災害時に固定電話や携帯電話が輻輳又は使用不可となった場合でも、衛星電話や防災相互波無線通信を用いて佐賀県や他県支部と相互連絡ができるよう通信訓練を行いました。

エ 災害時における保健医療福祉関係者研修会（3月14日（土））

佐賀県内における災害並びに南海トラフ地震をはじめとした大規模災害が発生した際に活動する県内の保健医療福祉関係者の顔の見える関係を構築することを目的として、「災害時における保健医療福祉関係者研修会」を開催しました。17団体50名（オブザーバー参加含めて71名）の参加があり、「保健医療福祉体制について（講義）」「各団体・組織紹介」「意見交換（グループワーク）」を行いました。「意見交換（グループワーク）」では、災害時の初動において、各団体・組織がどのタイミングでこういった活動を行うのか意見を交わし、連携強化に向けた有効な第一歩になるとともに団体・組織間の関係構築の一助となりました。

オ 会議

防災関係機関が実施する 会議名	主 催	日程	参加者数
佐賀県防災会議	佐賀県	3月24日	1名
佐賀市防災会議	佐賀市	5月22日	2名
小城市防災会議	小城市	5月23日	2名
佐賀県災害福祉支援ネット ワーク会議	佐賀県 佐賀県社会福祉協議会	4月23日	1名

(4) 赤十字防災ボランティアとの協働

ア 防災ボランティア緊急連絡訓練及び「日赤さが防災ボランティアセンター」立ち上げ・運営訓練（佐賀県支部 基礎編：5月24日（土）、6月22日（日））
（佐賀県支部 実践編：8月30日（土））

災害時、防災ボランティアが迅速かつ効果的に救護活動を実施するため、支部からの支援要請を緊急連絡網で伝達・回答し、支部に参集後は、防災ボランティアセンターの立ち上げと、防災ボランティアリーダーを中心に運営できることを目標に実施しました。

【基礎編】

参加人数：防災ボランティア 38 名

内 容：① 防災ボランティア緊急連絡訓練について
② 災害時の赤十字ボランティアについて
③ 防災ボランティアセンターの運営等について

【実践編】

参加人数：防災ボランティア 28 名

（うち防災ボランティアリーダー 2 名）

支部職員 5 名

内 容：① 災害時におけるボランティア活動実施報告
② 資材運搬車（エルフ）のテールゲートリフター操作訓練



防災ボランティアリーダー数：6 名

所属奉仕団名：救急法奉仕団、幼児安全法奉仕団、水上安全奉仕団、看護奉仕団
特殊輸送奉仕団（※重複所属あり）

(5) 救護装備及び救援物資の整備

令和7年度末における救護活動に必要な資機材の保有状況及び救援物資の備蓄状況は次のとおりです。

ア 救護資機(器)材の保有状況

（令和8年3月末現在）

品 名	数 量	品 名	数 量
救急車	2台(1)	発電機	5基(1)

品 名	数 量	品 名	数 量
災害救援車	7 台(1)	投光器	6 台
災害連絡車	2 台	防雨ヘッドランプ	40 個(4)
医療セット	2 組(2)	防護用ゴーグル	40 個(10)
担架	20 台(5)	防護用ヘルメット	35 個(4)
簡易ベッド	26 台(6)	折り畳み式机	6 台
災害救護用パソコン	1 台	無線基地局(150MHZ)	3 局(1)
災害救護用通信機器(Wifi)	1 機	車載無線機(//)	27 台(16)
パイプテント	27 張(20)	携帯無線機(//)	14 台
ドラッシュテント	1 セット	無線基地局(400MHZ)	1 局
エアテント大	3 セット(1)	車載無線機(//)	7 台
エアテント小	2 セット(1)	携帯無線機(//)	15 台
イーザーアップ・テント	22 張(20)	車載衛星電話	2 機
NBC災害除染セット	1 セット	可搬型衛星電話	1 機(1)
デジタル個人線量計	42 個	折り畳み舟艇	1 隻
空間線量率測定用サーベイメータ	1 台	折り畳みリヤカー	2 台
防護服セット	42 セット	非常用炊き出し釜	22 台
災害用トイレ（ラップポン）	12 据	DMA T資器材	1 セット(1)
自動体外式除細動機(AED)	2 台	浄水器	1 台
蓄電池（大）	2 台	蓄電池（小）	3 台

※（ ）カッコ内は管内赤十字施設及び地区分区の備蓄数（内数）

イ 救援物資の備蓄状況（地区分区備蓄分含む）

（令和8年3月末現在）

品 目	年度当初	受 入 (整備等含む)	払 出 (配布等含む)	年度末備蓄
毛布 (枚)	1,165	0	40	1,125
タオルケットセット (組)	427	0	1	426
バスタオル (枚)	498	0	37	461
緊急セット (個)	372	0	26	346
安眠セット (組)	378	6	0	384
ブルーシート (枚)	110	0	0	110
非常食 (食)	578	0	0	578

(6) 災害被災者に対する緊急物資等の配布

令和7年度は、火災等により罹災された29世帯に対し、次のとおり見舞品及び見舞金を贈呈しました。

世帯数	毛 布	バスタオル	緊急セット	見舞金等(円)
29	48	48	25	250,000



毛布・安眠セット



緊急セット

(7) 赤十字防災セミナーの開催

防災教育事業指導者在籍状況

(令和8年3月末現在)

名 称	所 属	人 数
佐賀県支部防災教育事業指導者	職 員	6 名
	奉仕団員	14 名
佐賀県支部防災教育事業主任指導者	支部職員	1 名

ア 赤十字防災セミナーの開催

近年、全国で大雨や台風、地震など自然災害が頻発する中、地域住民の防災に対する意識がこれまで以上に高まっています。そのニーズに応えるため、地域防災組織や学校などへ出向き、赤十字が保持している知識や技術をもとに、自助・共助の考えや応急手当、災害食作りなどをカリキュラムとした「赤十字防災セミナー」を開催し、自分のいのちは自分で守る「自助」の考えや事前に備えることの重要性を訴えました。また、自治体や地域の防災イベントにも積極的に参加しました。



防災セミナーの開催状況

実施回数	参加者数	セミナーの内容
38 回	2,123 人	○防災講話 … 災害への備え、自助共助の役割、避難のルール、避難所での生活、非常持ち出し品の準備 ○応急手当 … ストッキング・毛布・新聞紙等を応用した手当 ○災害食作り … ハイゼックス（炊飯袋）を使った炊き出し（飲食は伴わず）

(8) 臨時救護

公共性が高く多人数が参加するスポーツ大会やイベント等へ救護班(員)を派遣しています。

救護班(員)派遣状況

派遣回数	派遣延日数	派遣人数 (医師・看護師・主事・赤十字奉仕団)	応急手当をした人
11回	18日	42名	20名

(9) 赤十字看護師(救護員)の養成

救護看護師を確保するとともに、唐津赤十字病院における看護師の充足を図るため、日本赤十字九州国際看護大学(福岡県宗像市)で学ぶ学生に奨学金を貸与し看護師の養成を行っています。

なお、奨学金は1人年額60万円で継続して4年間貸与し、県支部と唐津赤十字病院が負担しています。令和7年度における救護看護師の養成は次のとおりです。

看護師奨学生の養成区分

(令和8年3月末現在)

学 校 名	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
日本赤十字九州国際看護大学	0名	2名	3名	0名

(10) 国内義援金

これまでに国内で発生した地震・豪雨・台風などによる災害被災者に対し、令和6年度に県民の皆様から寄せられた義援金は、日赤本社並びに被災県の日赤支部(被災県の配分委員会)を通じて被災者に全額届けられました。

内 訳	件 数	金 額(円)
令和6年能登半島地震災害義援金	188	17,515,617
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	45	593,913
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	72	2388,409
令和7年トカラ列島近海地震災害義援金	17	115,926
令和7年台風第8号に伴う災害義援金	3	3,961
令和7年8月6日から的大雨災害義援金	75	871,113
令和7年台風第12号災害義援金	4	23,030
令和7年台風第15号災害静岡県義援金	3	2,666
令和7年台風第22号・第23号義援金	3	31,350
令和7年11月18日佐賀関火災義援金	86	2,963,998
令和7年青森県東方沖地震義援金	2	30,700
合 計	498	24,540,683

2 国際救援活動

世界各地で紛争、災害、病気といった人道危機に苦しむ人々への支援活動を行いました。

特に、ウクライナにおける人道危機やイスラエル・ガザ人道危機、地震や洪水など、避難者や被災者に対する支援は急務です。

日本赤十字社の国際活動は、赤十字国際委員会（ICRC）及び国際赤十字・赤新月社連盟の調整の下、世界 191 の国や地域に広がるネットワークを通じて、こうした紛争や災害の犠牲者に対する緊急救援や復興支援をはじめ、開発途上国における貧困や保健衛生の改善、減災対策など、中長期的な開発支援活動に取り組み、人道的任務の達成に努めています。

- 独立国 196 カ国（日本政府承認）
- 国連加盟国 193 カ国
- 国際赤十字・赤新月社連盟加盟国 191 カ国
（赤十字 156 カ国、赤新月社 34 カ国、ダビデの赤盾社 1 カ国）



ミャンマー赤十字社が配布する飲料水と生活用品
を受け取る子ども ©MRCS（ミャンマー地震救援）

（1）日本赤十字社の活動

日本赤十字社は、紛争や災害の避難者や被災者を救援するために国際赤十字や国内の赤十字組織と連携しながら、医療救護要員や開発支援要員を養成・派遣するとともに、物資や資金の提供など緊急支援や中長期的な支援活動を迅速かつ計画的に実施しています。

これらの事業に要する資金は、国民の皆様から日赤本社及び各都道府県支部に寄せられる尊い活動資金・寄付金（災害救援金）・NHK海外たすけあい募金や国際救援金とその財源となっています。



安全な水を提供するパレスチナ赤新月者 ©PRCS



診療所で子どもを診察する医師 ©JRCS

ア 最近の日本赤十字社による主な緊急救援・復興支援実施事業 P39

事業名	実施年	実施内容
バングラデシュ南部 避難民救援	平成 29 年～	医療チーム派遣等の緊急救援から母子保健を含む診療サービスや避難民ボランティアによる地域活動、こころのケア等中長期支援
中東人道危機救援	平成 23 年～	日本人医療者による医療技術支援や診療所の衛生環境整備等、シリア難民・パレスチナ難民や受け入れコミュニティへの支援
ウクライナ人道危機 救援	令和 4 年～	ウクライナ及び周辺国において資金援助、薬剤師、こころのケア要員、理学療法士等の派遣、救急車及び医療資機材の供与等
トルコ・シリア地震 救援	令和 5 年 2 月～	食事の提供、巡回診療や水・現金の給付、病院への搬送支援、日赤からシリアへ IFRC 保健医療コーディネータの派遣等
イスラエル・ガザ 人道危機救援	平成 5 年 10 月～	イスラエル、ガザ地区内での救急搬送や治療、物資配付、献血、避難民へのこころのケア、野外病院への日赤資機材の寄贈等
台湾東部沖地震救援	令和 6 年 4 月～	見舞金の給付、家庭用品の配布、教育補助金の提供、防災訓練の実施、救護活動のための車両・通信設備の整備等
ミャンマー地震救援	令和 7 年 4 月～	緊急救援物資の配布、医療チーム派遣等の緊急救援から、現金給付等の中長期支援

イ 最近の日本赤十字社による主な長期的人道支援の取り組み

事業名	実施年	実施内容
ルワンダ気候変動等 レジリエンス強化事業 (第 2 期)	令和 7 年～	地域住民による共同貯蓄、家畜の配布、家庭菜園及び栄養指導、奨学金、給水設備やトイレの整備、ボランティアによる保険・衛生改善の啓発
アフガニスタン気候 変動対策事業(第 2 期)	令和 7 年～	学校での衛生教育。地域・学校での防災及び防災キット配布、干ばつに強い植物の栽培及び収入源確保、女性の収入向上のための職業訓練、帰還民等の生計回復に向けた起業支援
インドネシア防災強化 事業	令和 6 年～	災害リスクの高い地域での早期警報訓練、防災啓発のための家庭訪問、教員向け防災教育指導要領策定・配布、防災授業指導研修と受講した教員による生徒向けへ防災授業
モンゴル保健支援事業	令和 6 年～	救急法講習の強化、精神保健・心理社会的支援の研修カリキュラムの策定、及び寒波・冷害への対応を見据えたこころのケア活動の拡充

ジブチ気候変動対応事業（新規）	令和7年～	学校での気候変動に関するクラブ活動や教育、地域の環境保全活動や貯水タンク・家庭菜園・調理ストーブ等の導入
国際赤十字・赤新月社連盟を通じた支援	毎年実施	IFRCを通じた保健・衛生、気候変動、災害対応、ユース等、幅広い活動への支援、各国赤十字社、赤新月社の組織強化、およびIFRCが実施する地域会議・研修への支援



医薬品管理について協議するミャンマー赤十字社薬剤師と日赤薬剤師（写真右）©JRCS/MRCS/IFRC



被災した子どもたちが身を寄せるマンダレーの施設©IFRC

（２）佐賀県支部の活動

ア 国際救援活動

令和7年度に県民から寄せられた国際救援金は、日赤本社に送金し、被災国の緊急支援事業及び復興支援事業に役立てられました。

※支部直接扱い分

内 訳	件 数	金 額（円）
中東人道危機救援金	11	48,417
バングラデシュ南部避難民救援金	9	22,531
ウクライナ人道危機救援金	26	124,276
2025年ミャンマー地震救援金	29	2,020,332
2025年アフガニスタン地震救援金	3	3,044
パキスタン洪水救援金	2	371
イラン及び周辺国人道危機救援金	2	80,000
計	82	2,298,971

イ 「海外たすけあい」運動

日本赤十字社はNHKとの共催により、「第43回海外たすけあい」キャンペーンを、12月1日から12月25日まで実施しました。佐賀県支部では12月20日（土）に県内延べ6カ所において赤十字奉仕団員、有功会員、青少年赤十字メンバー、企業の社員など約300名の参加を得て街頭募金活動を実施しました。

令和7年度の「海外たすけあい」では、本県で、5,530,952円、全国では約6億4千万円の寄付金が寄託され、世界各地の紛争や自然災害などで苦しむ人々のために活用されています。

「海外たすけあい」街頭募金活動の実績

会 場		実績額
佐賀市	ゆめタウン佐賀	209,995 円
	イオンモール佐賀大和店	47,790 円
唐津市	イオン唐津ショッピングセンター	92,629 円
鳥栖市	フレスポ鳥栖	100,082 円
鳥栖市	マックスバリュ鳥栖村田店	46,456 円
みやき町	ミスターマックス北茂安店	14,323 円
合 計		511,275 円



ウ 安否調査

日本赤十字社では、災害発生時や有事の際に在住・滞在する外国人の安否調査を赤十字国際委員会（I C R C）や各国の赤十字社と連携・協力して行い、そこで見つかった家族の再会（離散家族の再会）ができるようにしています。

このほかに、紛争などで連絡手段を絶たれた人々や抑留された人々がI C R Cを通じて離れた家族と交わす手紙（赤十字通信）を、日本国内に住む宛先人まで届けるなどの活動を行っています。

3 救急法等の講習普及

「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、県内各地でいのちを守り健康で安全に暮らすための知識や技術を伝える講習会を実施しました。

令和7年度は、「赤十字WEB CROSS」をはじめ動画教材などICTの活用を図るとともに、他団体と連携し、多様性社会に向けた講習に取り組みました。

また、一般市民によるAEDの使用が解禁され20年の節目を迎える年となりました。AEDの講習については、よりAEDへの理解促進を図り、使用率向上に繋がるよう努めました。

さらに、地域包括ケア事業への取り組みとして、地域の『通いの場』の運営側や支援者への講習も引き続き実施しました。

(1) 救急法

最新の国際的ガイドラインや指針に基づき、日常生活における事故防止や応急手当の基本、胸骨圧迫やAEDの使い方、災害時の心得などの知識と技術を習得できる講習会を、児童生徒から企業、地域住民まで幅広い対象に向けて実施しました。

また、救急法基礎講習の学科WEBが正式導入となり、活用に向けて推進を行い実施しました



救急法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救急法基礎講習 (学科Web)	18回 (うち4回)	522人	522人	522人
救急員養成講習	10回	228人	228人	227人
短期講習	71回	3,995人		

(2) 水上安全法

水の事故から尊い人命を守るために必要な泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法、着衣泳など、自分自身の安全を保ちながら、安心して水と楽しく関わるための知識と技術を普及しました。特に着衣泳は小・中学生対象に実施しました。

また、令和7年度は県主催の年長児向けSAGAアクア体験会「Enji Basha」に参加しました。



水上安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救助員Ⅰ養成講習	1回	16人	14人	9人
短期講習	23回 (うち着衣泳22回)	985人		

(3) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすために役立つ知識や、家庭や地域での高齢者支援に役立つ知識・技術の習得と実践を通して、健康維持・増進の思想と互いに助け合う心を育む講習を開催し、主に地域で高齢者支援を行うボランティアが参加されました。



健康生活支援講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	1回	5人	5人	5人
短期講習	2回	93人		

(4) 幼児安全法

子どもの尊い生命を守り、社会全体で子どもを大切に育てるために、事故予防とケガや病気の手当ての方法、救命手当などの知識や技術の普及を目的に、保護者や保育園・幼稚園の職員、地域の子育て支援サポーターを対象に実施しました。



幼児安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	1回	21人	21人	21人
短期講習	29回	639人		

(5) 講習資機材の貸し出し

心肺蘇生用人形及びAEDトレーナー 18回

(6) 指導員の養成・育成

赤十字の各種講習は、講師が指導する指導員養成講習の検定に合格し、指導員資格を取得した多くのボランティアの活動により開催されています。指導員は、赤十字の協力者として、人のいのちと健康を守る方法を広く普及するための知識や技術を有しているだけでなく、講習を通じて赤十字そのものも普及推進します。

指導員在籍状況

講習種別	ボランティア	支部	病院	血液センター	計
救急法指導員	62人	4人	6人	4人	76人
水上安全法指導員Ⅱ	30人	3人	2人	2人	37人
健康生活支援講習指導員	3人	0人	3人	2人	8人
幼児安全法指導員	21人	2人	2人	1人	26人

ア 指導員養成講習

幼児安全法普及体制の強化を図るため 10 年ぶりとなる指導員養成講習を開催し、新たに 6 名の指導員が誕生しました。

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
幼児安全法 指導員養成講習	1 回	7 人	7 人	6 人

イ 指導員研修会

毎年、赤十字講習の知識・技術・指導法の維持向上を目的とする指導員研修会を開催しています。

指導員研修会

期 日	研修名	会 場	参加者
4 月 17 日、19 日	救急法指導員伝達研修会	日本赤十字社 佐賀県支部	26 人 26 人
5 月 10 日	水上安全法指導員伝達研修会	SAGA アクア	21 人
3 月 21 日	幼児安全法指導員伝達研修会	日本赤十字社 佐賀県支部	15 人
3 月 21 日	健康生活支援講習指導員伝達研修会	日本赤十字社 佐賀県支部	6 人

(7) 講師の養成・育成

救急法などの講習を指導しているのは、「指導員」の資格を持つ日赤職員やボランティアです。そして、その「指導員」を養成・育成する役割を担うのが、「講師」です。

ア 講師養成

佐賀県支部では初めてボランティア指導員が「講師」資格を取得し、水上安全法講習における指導体制の充実につながりました。

講師在籍状況

講習種別	講師数
救急法	3 人
水上安全法	2 人
健康生活支援講習	2 人
幼児安全法	2 人

イ 講師研修会

最新の講習教本および指導要領、今後の講習普及方針について理解を深め、講習の普及と指導員育成計画に役立てることを目的としています。

講師研修会参加状況

研修会名・会議名	開催形式	回数
救急法講師研修会	本社参集	1回
水上安全法講師研修会	本社参集	1回
健康生活支援講習講師研修会	本社参集	1回
幼児安全法講師研修会	本社参集	1回

(8) 地域包括ケア事業への参画

医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるよう、地域で支える「地域包括ケア事業」。

全市町へのアンケート調査や訪問聞き取りに基づき、市町が行う『通いの場』に携わる人材育成のための研修会で『博愛のこころを未来へ～地域包括ケア参画事業』と題し赤十字講習を実施しました。



地域包括ケア参画事業実施状況（「通いの場」支援者養成等にかかる講習）

期 日	依頼元（講習種別）	会 場	参加者
12月4日	佐賀市保健福祉部 （防災セミナー）	佐賀市役所大財別館4階	63人
12月16日	大町町福祉課 （救急法）	総合福祉保健センター美郷	24人

地域包括ケアにかかる本社主催会議参加状況

会議名	開催形式	回数
地域包括ケア担当会議	Web開催	1回
地域包括ケア担当会議	参集 （日本赤十字社本社）	1回

(9) 多様性社会に向けた講習指導について

佐賀県国際交流協会の協力のもと、“やさしい日本語”の使い方や“やさしい日本語”を活用した心肺蘇生とAEDの使い方について赤十字講習指導員と外国人留学生在が意見交換を行いました。

また、聴覚障害者協会の協力のもと、聴覚障害がある方々に赤十字救急法基礎・養成講習を開催しました。



期 日	協力団体	会 場	参加指導員
4 月 6 日 26 日 27 日	聴覚障害者協会	日本赤十字社佐賀県支部	7 人
11 月 15 日	佐賀県国際交流協会	日本赤十字社佐賀県支部	18 人

4 赤十字奉仕団活動

赤十字奉仕団は、人道・博愛の赤十字精神のもとに赤十字の使命とする人道的諸活動を実践しようとする人々が集まって結成されたボランティア組織であり、災害救護支援、各種講習会の指導、青少年赤十字活動など様々な分野で活動を展開しました。

平成29年6月に設置された「佐賀県奉仕団委員長連絡会議」は、令和3年4月より「佐賀県赤十字奉仕団支部委員会」と名称を改め、奉仕団間の連携強化を図り、より主体的・積極的な活動の推進に努めています。

(1) 各赤十字奉仕団の現況

ア 地域赤十字奉仕団

市地区・町分区において地域婦人会を中心に結成されており、災害が発生した場合には地域において機動的に救援活動等を行う重要な奉仕団です。

団 名	団 数	団員数	委員長
佐賀県地域赤十字奉仕団	17 団	1,333 名	山口 七重

イ 青年赤十字奉仕団

若い力と行動力を社会に役立てようと学生等で結成された組織で、「防災減災啓発」、「JRC 活動支援」、「その他奉仕活動」など、様々な活動を展開しています。

団 名	団員数	委員長
佐賀県青年赤十字奉仕団	28 名	執行 亜由美

ウ 特殊赤十字奉仕団

特殊赤十字奉仕団は、様々な専門技術を持つ人や、特定の奉仕活動を行おうと集まった人々によって組織されており、それぞれの特徴を生かした活動を実践しています。本県には9つの特殊奉仕団と、日赤本社が直轄する赤十字飛行隊佐賀県支隊があります。

団 名	団員数	委員長
佐賀県赤十字救急法奉仕団	33 名	瀬戸 弘美
佐賀県赤十字水上安全奉仕団	25 名	森田 徹
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	17 名	牛草 達雄
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	53 名	夏秋 正倫

佐賀県赤十字看護奉仕団	22 名	門田 直子
佐賀県赤十字無線奉仕団	24 名	江口 信彦
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	19 名	一ノ瀬 安信
佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」	12 名	高木 大地
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	14 名	下村 京子
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	5 名	江頭 保彦

(2) 各赤十字奉仕団の活動

ア 2025 大阪・関西万博の「国際赤十字・赤新月運動館」における活動

来場者対応を担うパビリオン運営スタッフとして奉仕団員 6 名を派遣し、来場者の受付や案内等の活動を行いました。

イ 災害救護に関する活動

活 動	参加奉仕団	実績
防災セミナーの普及・指導	青年、救急法、水上安全、 幼児安全法、看護、特殊輸送	7 回
臨時救護	看護	5 件
車両整備、タイヤ交換	特殊輸送	随時
さが桜マラソン救護(AED) 支援	救急法、水上安全、幼児安全 法、看護	12 名



防災セミナー（博愛の里こども園）

ウ 国際救援に関する活動

日 付	活 動	参加奉仕団	実績
12 月 1 日	NHK 海外たすけあい寄附金 20,000 円	地域（一品供出金運動）	
12 月 1 日 ～ 25 日	海外たすけあい募金 NHK 窓口受付業務	青年、救急法、看護、しゃ ちの会、	18 回
12 月 20 日	海外たすけあい街頭募金	地域、青年、救急法、水上安 全、幼児安全、賛助、輸送、ほ っと	26 名



NHK 佐賀放送局で行われたオープニングセレモニー
(地域赤十字奉仕団の福島副委員長による NHK 海外たすけあい寄付金の贈呈)

NHK 佐賀放送局特設窓口

エ 救急法等の講習普及に関する活動

活 動	参加奉仕団	実績
各種赤十字講習普及・指導	救急法、水上安全、幼児安全法	145 回

オ 青少年赤十字の普及・育成に関する活動

活 動	参加奉仕団	実績
青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング センター 打ち合わせ、事前準備	青年	8 名
青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング センター (小・中・高)	青年、賛助、看護	6 日間
青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング センター反省会	青年	6 名
青少年赤十字高校メンバー協議会 定例会サポート	青年	9 名
青少年赤十字指導者育成研修会	賛助	2 日間
杵島地区生徒会リーダー研修会	賛助	1 名

カ 献血推進に関する活動

日 付	活動内容	参加奉仕団	実績
11 月 3 日	佐賀国際・パルフェスタ 献血活動	青年	1 回

キ 社会福祉施設等での活動

活 動	参加奉仕団	実績
高齢者へのリラクゼーション・ハンドケア	ほっと	毎月 4 施設

ク 清掃活動

日 付	活動内容	参加奉仕団	実績
11 月 3 日	佐賀国際・パルフェスタ 清掃活動	青年	3 名
3 月 21 日	桜マラソン清掃活動	青年	5 名

ケ 会員増強に関する活動

活 動	参加奉仕団	実績
広報資材仕分け	しゃちの会	毎月

(3) 佐賀県赤十字奉仕団支部委員会の活動

奉仕団間の連携を強化し研鑽を図ることを目的とし、各奉仕団の委員長を中心に構成しています。

ア 役員会・総会

日 付	会 場	内 容
3月3日	日本赤十字社佐賀県支部	第1回役員会
3月7日	日本赤十字社佐賀県支部	総会

イ 第6ブロック奉仕団委員長並びに支部担当課長会議（長崎県支部当番）

期 日	開催形態	参加者	
1月22日	Web 会議	瀬戸 弘美	佐賀県赤十字奉仕団支部委員会 委員長 佐賀県赤十字救急法奉仕団 委員長

ウ 赤十字奉仕団中央委員会（本社主催）

期 日	会 場	参加者	
7月3日 ～ 4日	日本赤十字社本社	瀬戸 弘美	佐賀県赤十字奉仕団支部委員会 委員長 佐賀県赤十字救急法奉仕団 委員長

エ 佐賀県赤十字奉仕団研修交流会（支部との共催）

奉仕団間の協働や相互支援により各奉仕団の枠を超えた多角的な奉仕活動を展開し、奉仕活動の充実を図ることを目的に平成26年度より研修交流会を開催しています。

また、平成29年度より各奉仕団から実行委員を選出し、支部指導講師と実行委員により研修交流会の企画・運営を行っています。

令和7年度は日赤本社で開催された研修会に参加された方及び2025大阪・関西万博に派遣された方からの報告会や幼児安全法・高齢者疑似体験・炊き出しの体験を行いました。

日 付	会議・研修名	会場	活動内容	参加人数
9月27日	第1回実行委員会	日本赤十字社 佐賀県支部	内容検討、役割分担	9名
1月17日	第9回佐賀県赤十字 奉仕団研修交流会	日本赤十字社 佐賀県支部	本社研修報告会、FW	40名



奉仕団研修交流会での体験活動の様子

オ 奉仕団機関誌「凌風丸」の発行

令和4年度より、支部委員会の活動の一環として標記機関誌を作成・発行しています。

令和7年度も引き続き発行し、水上安全奉仕団の活動紹介や2025大阪・関西万博派遣報告について紹介しました。



水上安全奉仕団の活動を紹介



2025大阪・関西万博派遣報告を紹介

(4) 奉仕団員対象研修会

ア 赤十字ボランティア基礎研修及び日赤さが防災ボランティアセンター設置運営訓練基礎編

期 日	実施主体	会 場	参加者
5月24日	青年奉仕団	日本赤十字社佐賀県支部	7名
6月22日	幼児安全法奉仕団	日本赤十字社佐賀県支部	11名

イ 日赤さが防災ボランティアセンター設置運営訓練（実践編）

期 日	内 容	会 場	参加者
8月30日	災害時におけるボランティア活動実施報告 資材運搬車のテールゲートリフター操作訓練	日本赤十字社 佐賀県支部	28名

ウ 赤十字ボランティア・リーダー研修会

期 日	会 場	参加者
8月23日 ～25日	日本赤十字社 本社	田中 空夢（青年赤十字奉仕団） 高尾 美月（青年赤十字奉仕団）

(5) 佐賀県支部赤十字奉仕団指導講師の活動

支部指導講師は、赤十字奉仕団などのボランティア活動に対し指導・助言を行い、研修会の企画運営や講師役を担うボランティア指導者です。赤十字運動を推進する中心的役割を果たします。

ア 支部指導講師打ち合わせ

期 日	内 容	会 場	参加者
2月8日	基礎研修会打ち合わせ 奉仕団研修交流会について	日本赤十字社佐賀県支部	5名

イ 佐賀県支部赤十字奉仕団指導講師 委嘱

指導講師名	所属奉仕団	委嘱年度
牛草 達雄	救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H26 年度
鈴木 容子	看護奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H29 年度
松崎 かめ代	救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H29 年度
夏秋 正倫	青少年赤十字賛助奉仕団	H30 年度
秋山 芳美	青少年赤十字賛助奉仕団	R 元年度

(6) 奉仕者功労表彰

ア 日本赤十字社表彰

平成 24 年度九州八県赤十字大会を当県支部が開催したことを契機に、毎年度永年赤十字活動に尽力され、功績のあった奉仕者を表彰しています。

令和 7 年度 奉仕者功労 日本赤十字社表彰者数

奉 仕 団 名	金 色 有功章 (20 年以上)	銀 色 有功章 (15 年以上)	支部長 感謝状 (10 年以上)	支部長 感謝状 (5 年以上)	計
佐賀県地域赤十字奉仕団	0	9	0	0	9
佐賀県青年赤十字奉仕団	0	0	2	3	5
佐賀県赤十字救急法奉仕団	0	0	4	0	4
佐賀県赤十字水上安全奉仕団	7	0	0	0	7
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字看護奉仕団	4	1	0	0	5
佐賀県赤十字無線奉仕団	0	0	2	0	2
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	2	0	0	0	2
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	0	0	0	0	0
計	13	10	8	3	33

イ 県政功労者 佐賀県知事表彰

(ア) 種 別 福祉・保健衛生功労

(イ) 受章者 矢ヶ部 登志子(佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」委員長)
佐田 清子(佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」副委員長)

5 青少年赤十字（J R C）の活動

青少年赤十字活動は、幼稚園・保育園、小・中・高等学校・特別支援学校の児童生徒が、学校教育や日常生活の中で赤十字精神を身につけ、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう実践と体験を基にした学習を学校や地域において実践しています。

《態度目標》

「気づき・考え・実行する」

《3つの実践目標》

- ・生命と健康を大切にする（健康・安全）
- ・人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する（奉仕）
- ・広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う（国際理解・親善）



JRC 登録式：博愛の里こども園

青少年赤十字活動は、県・市町の教育委員会、青少年赤十字加盟校で構成する青少年赤十字指導者協議会、青少年赤十字賛助奉仕団、青年赤十字奉仕団との一体的取り組みにより行われています。



中学校トレセン：「リーダーシップとは」



指導者育成研修会：「フィールド・ワーク：博愛の国」

（1）青少年赤十字加盟登録状況及び加盟促進

ア 青少年赤十字加盟校の構成

校 種	加盟校数(校・園)	メンバー数	指導者数
幼稚園・保育園	15	1,368	415
小 学 校	119	27,606	2,369
中 学 校	76	20,643	1,600
義務教育学校	6	1,870	218
高 等 学 校	33	10,991	885
特別支援学校	5	483	216
専修学校	2	33	4
合 計	256	62,993	5,707

※小・中・高校・特支のJ R C加盟校は、全体の約81%

イ 青少年赤十字加盟校一覧

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・ 特別支援学校等	計
佐 賀 市	博愛の里こども園、 本庄幼稚園、鍋島幼稚園、 嘉瀬保育園、高岸幼稚園、 にじのはねこども園、 エミールこども園 新栄、思斉、中川副、 大詫間、南川副、西川副、 東与賀、久保泉、佐大附属、 富士、若楠、諸富北、 北山東部、本庄、巨勢、 日新、諸富南、三瀬、嘉瀬、 高木瀬、西与賀、松梅、 勸興、赤松、鍋島、開成 北川副	34 佐大附属、城南、 昭栄、城東、金泉、 諸富、富士、三瀬、 大和、川副、城北、 東与賀、佐賀清和、 鍋島、松梅、思斉、 弘学館、龍谷、成穎	19 佐賀東、 佐賀工業、龍谷、 北陵、佐賀北、 佐賀女子、 佐賀学園、 佐賀商業、 高志館、 致遠館、佐賀西、 清和、弘学館、 盲学校佐賀大和特支、 星生学園 九州国際高等学園 附属特別支援学校 金立特別支援学校	19 72
唐 津 市	すみれ幼稚園、 平原、成和、湊、馬渡、呼子、 外町、長松、久里、大志、佐志、 玉島、北波多、浜崎、西唐津、 東唐津、相知、小川、七山、 鏡山、肥前、高峰	22 第一、鏡、鬼塚、佐志、 相知、肥前、七山、 西唐津、馬渡、小川、 高峰、海青、第五、 厳木、浜玉、湊、 唐津東	17 唐津東、唐津南、 唐津西、厳木 唐津商業	5 44
鳥 栖 市	虹の子保育園、レインボー保育園、 あいりす保育園、神辺幼稚園、 鳥栖ルビニ幼稚園、 基里、田代、若葉、弥生が丘、 麓、鳥栖北、旭、鳥栖	13 基里、田代、鳥栖西、 鳥栖、香楠	5 鳥栖、鳥栖商	2 20
多 久 市	ひしのみこども園	1 西溪校、中央校、 東部校(義務教育学校)	3 多久	1 5
伊 万 里 市	黒川、波多津、立花、山代東、 牧島、山代西、二里、伊万里、 大川内、大坪、東山代	11 青嶺、山代、国見、 啓成、伊万里、 南波多郷学館 (義務教育学校)	6 敬徳	1 18
武 雄 市	北方、西川登、朝日、若木、 山内東、武内、武雄、橘、 東川登	9 山内、武雄、北方、 武雄青陵、川登、 武雄北	6 武雄	1 16
鹿 島 市	鹿島、七浦、浜、能古見、 明倫、北鹿島、古枝	7 東部、西部	2 鹿島	1 10
小 城 市	芦刈、岩松、桜岡、晴田、 砥川、牛津、三日月、三里	8 小城、牛津、芦刈、 三日月	4 牛津	1 13
嬉 野 市	吉田、大草野、轟、久間、 嬉野	5 吉田、塩田	2 嬉野	1 8
神 埼 市	神埼、脊振、西郷、仁比山、 千代田西部、千代田中部、 千代田東部、 サールナートこども園	8 神埼、千代田、脊振	3 神埼、神埼清明	2 13

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・ 特別支援学校等	計
三養基郡	北茂安、三根西、三根東、 中原、上峰、若基、基山 7	三根、上峰、北茂安、 中原、基山 5	三養基、 中原特別支援 2	14
神 埼 郡	三田川、東脊振 2	三田川、東脊振 2	0	4
東松浦郡		玄海みらい学園 (義務教育学校) 1	唐津青翔 1	2
西松浦郡	大山 1	有田、西有田 2	0	3
杵 島 郡	六角、白石、有明東、江北 4	白石、江北、 大町ひじり学園 (義務教育学校) 3	白石、佐賀農業 2	9
藤 津 郡	大浦、多良 2	大浦、多良 2	太良 1	5
計	幼・保 15 小学校 119	義務教育学校 6 中学校 76	特別支援 5 高校 35	256

※ … 令和 7 年度 新規加盟校 4 校（こども園：1 園）（小学校：3 校）

※統合（大良小・竹木場小・切木小⇒高峰小）加盟

統合（大川小・松浦小・東陵中⇒東陵学園）未加盟

ウ 青少年赤十字加盟登録式

青少年赤十字メンバーとしての意識を高めるため、加盟登録式への講師派遣を行い、JRC 活動や「博愛のこころ」を伝える講話を実施しました。

・実施校 9 校

（博愛の里こども園、諸富北小学校、三瀬小・中学校、三田川中学校、東脊振中学校、北茂安中学校、脊振中学校、千代田中学校、佐賀女子高校）

エ 青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状贈呈

加盟校長等研修会において、継続的に加盟している学校・園に対し感謝状を贈呈しました。

①10 年以上継続校（園） 9 校

②5 年～9 年継続校（園） 3 校

オ 青少年赤十字賛助奉仕団による「イトスギ」の贈呈
加盟校長等研修会において、加盟校に対し、青少年赤十字賛助奉仕団が育苗した「イトスギ」の贈呈を行いました。「イトスギ」は赤十字・青少年赤十字のシンボルツリーであり、県内で加盟歴の長い学校から順に、平成 24 年度より贈呈を行っています。

○「イトスギ」贈呈校

①武雄青陵中学校 ②佐賀市立開成小学校

③武雄市立橘小学校



（２）指導者協議会の活動

青少年赤十字活動は、加盟校の教職員との連携のもと、学校教育の中で取り組まれており、JRC では加盟校の教職員を「指導者」として位置づけています。

ア 役員会・総会・研究会

区分	開催日	会場	参加者数
役員会（第1回）	5月15日（木）	メートプラザ佐賀	31名
総会並びに研修会	5月15日（木）	メートプラザ佐賀	110名
理事研究会	6月12日（木）	日赤佐賀県支部	9名
役員会（第2回）	2月27日（金）	日赤佐賀県支部	22名

イ 青少年赤十字加盟校長等研修会

青少年赤十字指導者協議会の主体化及び組織強化を図るため、加盟校長等を対象とした研修会を開催しました。令和7年度は、防災啓発教材「ひなんじょたいけん」を活用した体験型研修を実施しました。

- ・開催日 10月31日（金）
- ・場 所 メートプラザ佐賀
- ・参加者数 118名



研修Ⅰ「青少年赤十字と学校教育」



研修Ⅱ「小学校の部」



研修Ⅱ「中学校の部」



研修Ⅱ「高校の部」

ウ 佐賀県青少年赤十字指導者育成研修会

青少年赤十字活動の充実及び指導者の育成を目的として研修会を開催しました。

- ・開催日 6月20日（金）～21日（土）
- ・場 所 四季彩ホテル「千代田館」
- ・参加者数 5名（小学校3名・中学校1名・高校1名）

エ 全国・ブロックの会議への参加

名称	開催日	会場	参加者数
全国指導者協議会総会	7月4日（金）	日赤本社	宮原 孝子 （諸富北小学校長／指導者協議会監事）※会長代理参加
九州ブロック青少年赤十字指導者協議会会長並びに支部担当者会議	12月23日（火）	WEB 熊本県支部 当番	豆田 幸彦 （田代小学校長／指導者協議会会長）他 支部職1名

オ 各種研修会等への派遣

（ア）全国青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンター指導者養成講習会

- ・開催日 5月30日（金）～6月1日（日）
- ・場 所 国立オリンピック記念センター
- ・参加者 麻生峻介（佐志小学校教諭／指導者協議会幹事）

(イ) 指導主事対象青少年赤十字研究会

- ・開催日 8月6日(水)
- ・場所 日赤本社
- ・参加者 藤瀬 恭子(佐賀県教育委員会事務局学校教育課指導主事)
小副川隼人(東部教育事務所指導主事)

(ウ) 九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会(熊本県主催)

- ・開催日 8月18日(月)19日(火)
- ・場所 熊本市立金峰山自然の家ヤマガラビレッジ
- ・参加者 本田英志(佐志小学校教諭/今年度JRC指導者育成研修会受講者)

(3) メンバー育成及び交流

ア 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター

加盟校の児童・生徒を対象に、学校生活や地域活動におけるリーダー育成を目的として実施しました。

【小学校の部】

- ・開催日 7月29日(火)～30日(水)1泊2日
- ・場所 北山少年自然の家
- ・参加者数 32名

○参加メンバーは、学習成果の実践活動として、国際理解・親善を目的に「NHK海外たすけあい街頭募金」にも参加しました。

【中学校の部】

- ・開催日 7月24日(木)リモート開催
7月31日(木)～8月1日(金)
- ・場所 北山少年自然の家
- ・参加者数 26名

【高等学校の部】

- ・開催日 7月25日(金)、26日(土)
- ・場所 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館、日赤佐賀県支部
- ・参加者数 10名

イ 杵島地区生徒会リーダー研修会

【中学生対象】

- ・開催日 12月25日(木)
- ・場所 江北中学校
- ・参加者数 10名

ウ 青少年赤十字スタディー・センター(本社主催)

全国の青少年赤十字メンバーとの交流を通じ、リーダーとしての資質向上を図るため、本県から高校生メンバーを派遣しました。

- ・開催日 3月22日(日)～3月26日(木)4泊5日
- ・場所 山梨県東照館
- ・参加者 井上 蒼介(県立神埼高校)
北野 萌愛(佐賀女子高等学校)
- ・指導スタッフ 坪根 絵里(佐賀女子高等学校教諭/指導者協議会幹事)

エ 国内交流

千葉県JRCメンバーと中川副小学校との交流会を実施しました。

- ・開催日 12月13日(金)
- ・場所 中川副小学校
- ・参加者 中川副小学校5年生・千葉県JRCメンバー7名
- ・交流内容 各県の特徴紹介、JRC活動紹介等

オ JRC高校メンバー協議会活動

月1回定例会を開催し、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」等をテーマに、自主的な企画・運営による活動を行いました。



5月17日 スタディーセンター報告 高齢者疑似体験&車いす体験



7月12日 視覚障害の方との交流(点字ブロックについて学ぶ)



9月13日 感染症予防の手洗い



11月15日 ラオス赤十字救急法普及支援事業、留学生による母国紹介と交流



1月25日 感染症予防 感染症から身を守る(日赤佐賀県支部職員の講話)

カ 優良メンバー、グループ表彰

青少年赤十字活動が特に顕著であったメンバー及びグループについて、学校長の推薦に基づき表彰を行いました。

<優良メンバー表彰> 8名

氏 名	学 校 名	氏 名	学 校 名
天岡悠真	唐津市立外町小学校	丸田 湊	唐津市立外町小学校
井手綾乃	唐津市立西唐津小学校	加勢田莉緒	唐津市立佐志小学校
高木彩葉	佐賀市立諸富北小学校	吉次優花	佐賀市立諸富北小学校
山下悠楽	神崎市立背振中学校	福田陽万里	県立多久高等学校

<優良グループ表彰> 3団体

グループ名	グループ名
外町小学校ボランティア委員会	脊振中学校生徒会
思斉中学校生徒会	

(4) 防災教育及び安全教育の推進

ア 青少年赤十字防災教育講話

学校等において、「ためになる！青少年赤十字防災学習」と題した防災教育講話を実施しました。

・実施件数 42 件

1	千代田中部小学校(垂直避難訓練)	22	六角小学校3・4年生 おうちのキケン
2	博愛の里こども園(職員対象)	23	六角小学校5・6年生 KAG 体験
3	高峰中学校1・2年生「ひなんじょ たいけん」	24	六角小学校 地震火災避難訓練
4	白石中学校3年生(KAG 体験)	25	国見中学校1年生(防災講話・グループワーク)
5	小川小中学校 災害時シミュレーション体験	26	白石小学校4年生(親子防災)
6	小川小中学校 災害食づくり+防災講話	27	江北小学校4年生(災害食づくり、おうちのキケン)
7	小川小中学校 おうちのキケン	28	鍋島小学校4年生(防災発表会)
8	北山東部小学校 土砂災害からいのちを守る	29	弥生が丘小学校3年生(備え：防災講話)
9	北山東部小学校 災害時シミュレーション体験	30	七浦小学校(地震・津波避難訓練)
10	大町ひじり学園7年生 自助に役立つ防災講話	31	サールナートこども園「防災の日」おうちのキケン・KAG
11	基里小学校 (垂直避難訓練)	32	神埼高校10名(支部訪問：自助・共助講話)
12	千代田中学校(垂直避難訓練)	33	JRC 理事研究会「ひなんじょ たいけん」
13	大草野小学校(地震火災避難訓練)	34	指導者育成研修会「KAG 体験」
14	西有田中学校(防災講話：水害)	35	高校の部トレセン「あなたの大切なもの」
15	鳥栖小学校5年生(防災講話+グループワーク)	36	日赤探検隊(おうちの安全隊長・災害食づくり)
16	鍋島小学校4年生(防災講話)	37	北茂安小学校4年生と民生委員(グループワーク)
17	鏡山小学校4年生(防災講話)	38	中原小学校4年生と民生委員(グループワーク)
18	鳥栖小学校5年生「ひなんじょ たいけん」	39	三根東/西小学校4年生と民生委員(グループワーク)
19	鹿島小学校(地震火災避難訓練)	40	青少年赤十字加盟校長等研修会(ひなんじょ たいけん)
20	諸富北小3年 PTA(災害食づくり・新聞紙活用)	41	田代小学校4年生と民生委員(グループワーク)
21	大詫間小学校(全校) 防災講話	42	JRC 高校生定例会(災害時の感染症対策)

イ こころが育つ！青少年赤十字「いのちの教育」いじめ防止出前講座

・実施校 東与賀小学校

ウ 学校安全総合支援事業

佐賀県教育委員会が実施する学校安全総合支援事業において、推進委員及び学校安全アドバイザーとして参画しました。

学校安全総合支援事業実施状況

会 場	実施日	内 容
旧自治会館	6月10日（火）	推進委員会への参加
東原庫舎中央校	7月 7日（月）	実践委員会への参加
白石中学校	7月17日（木）	実践委員会への参加
東原庫舎中央校	12月16日（火）	実践委員会への参加
白石中学校	12月22日（月）	実践委員会への参加
県庁新館111号 会議室	2月10日（火）	推進委員会への参加
白石中学校	6月 6日（金）	3年生への防災講話（地震）
六角小学校	10月30日（木）	3～4年生 おうちのキケン 5～6年生 KAG 体験 全校：地震火災避難訓練
白石小学校	11月11日（火）	4年生親子防災学習 防災グッズづくり

（５） 青少年赤十字加盟校等で行われた義援金・救援金活動（支部扱い分）

内 訳	件 数	金 額（円）
令和7年8月6日からの大雨災害義援金	2	337,963
令和7年11月18日佐賀関火災義援金	1	49,600
合 計	3	387,563

6 赤十字思想の普及と広報活動

(1) 令和7年全国赤十字大会

5月13日(火)、明治神宮会館(東京都渋谷区)において、令和7年全国赤十字大会が、日本赤十字社名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁各宮妃殿下のご臨席のもとに、開催されました。佐賀県からは17名が参会しました。

(2) 令和7年度九州八県赤十字大会

11月13日、九州八県支部が持ち回りで開催している九州八県赤十字大会が、川商ホール〔鹿児島市民文化ホール〕(鹿児島県鹿児島市)において開催されました。受章(彰)者150名を含む赤十字関係者等約1,200名が参加しました。第2部のアトラクションとして、天孫降臨霧島九面太鼓保存会による演奏が披露されました。

金色有功章個人2人、同法人1社、銀色有功章個人1人、同法人1社、日本赤十字社感謝状個人2人、同法人3社が本大会にて受章(彰)されました。これを含む佐賀県参会者は、特別社員(会員)、地区分区関係など計42名でした。

佐賀県内の全受章(彰)者は以下のとおりです。(敬称略、順不同)

ア 日本赤十字社感謝状(金色有功章後の社資功労)

個人	福山 つや子 (佐賀市)	
	嬉野 政則 (佐賀市)	
	小柳 清久 (鳥栖市)	
	森山 孝行 (嬉野市)	
法人	松尾建設 株式会社 (佐賀市)	株式会社戸上電機製作所 (佐賀市)
	佐賀富士ベンディング株式会社 (佐賀市)	久光製薬 株式会社 (鳥栖市)
	祐徳稻荷神社 (鹿島市)	

イ 金色有功章(社資功労)(役職功労/R8.1月内申)

個人	武藤 麗子 (佐賀市)	
	成瀬 弘美 (唐津市)	
	今村 薺 (小城市)	
	大島 正親 (みやき町)	
	田島 健一 (白石町) / 役職功労	
	江原 典孝 (佐賀市) / 役職功労	
	西 清澄 (佐賀市) / 役職功労	
法人 団体	東部林業株式会社 (佐賀市)	
	鹿島興産株式会社 南鳥栖自動車学院 (鳥栖市)	
	株式会社 川武潜水興業 (太良町)	

ウ 銀色有功章（社資功労）（役職功労／R8.1 月内申）

個人	岸川 美波留 （佐賀市）	貞松 由美子 （小城市）
	馬場 清英 （神崎市）	寺原 孝明 （茨城県）
	中原 敏博 （福岡県）	根本 剛 （鳥栖市）
	井町 信彦 （東京都）	奥野 昌哉 （東京都）
	脇山 伸太郎（玄海町）／役職功労	古賀 基樹 （嬉野市）／役職功労
	伊藤 雄司 （唐津市）／役職功労	野中 結子 （唐津市）／役職功労
	坂田 勝次 （佐賀市）／役職功労	
法人・団体	株式会社 クリーン・リース （佐賀市）	
	株式会社 A N A エアサービス佐賀 （佐賀市）	
	嘉村 幸彦 （佐賀市）	
	一般財団法人 佐賀県環境科学検査協会 （佐賀市）	
	Nスタイルノグチ株式会社 （佐賀市）	
	有限会社 古川動物病院 （唐津市）	
	株式会社 ネット鹿島 （鹿島町）	

（３）佐野祭

佐野常民初代社長の命日にあたる 12 月 7 日に、佐賀市川副町早津江の生誕地において、佐野常民顕彰会の主催により遺徳を顕彰する佐野祭が執り行われました。

この慰霊祭には、佐野常民顕彰会並びに赤十字有功会、赤十字施設幹部職員などの赤十字関係者と地元有志など約 60 人が参加しました。



佐野祭の様子

（４）博愛フェスタ 2025

12 月 1 日から 21 日までの期間、「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」において、博愛精神の普及と啓発を目的として、佐賀市、佐賀市教育委員会、佐野常民顕彰会、日本赤十字社佐賀県支部の共催による「博愛フェスタ 2025」が開催されました。

令和 6 年度よりイベントスケジュールの見直しが行われ、当支部ではフェスタ最終日にて JRC 活動の紹介を行いました。このフェスタの中心事業として行なわれた「第 22 回全国博愛絵画展」では、博愛大賞に古賀嵐太さん（佐賀市城北中学校 1 年生）の『イカの町呼子町』が選ばれました。入賞者の作品は期間中、歴史館に展示されました。

（５）防災・減災プロジェクト「ACTION! 防災・減災」

日本赤十字社では毎年 3 月に、過去の災害の教訓を忘れることなく、将来起きる災害に対する防災・減災意識の向上を目指し、「私たちは忘れない」キャンペーンを実施してきました。

また、東日本大震災から 14 年が経ち、これまでの災害から得た教訓を「わすれない」から一歩進んで、一人でも多くの方に防災・減災に関する「アクション」を起こしていただくことを

目指し、令和2年度からは、プロジェクト名を新たに「ACTION!防災・減災」として実施しています。主な内容として、本社作成ポスターを活用した広報活動や、公式 SNS での投稿により防災・減災への意識向上を広く県民に対し呼びかけを行いました。

また、県内企業2社からは、この活動にご賛同いただき、災害救護等の活動費を含む日赤の活動資金へのご寄付をいただきました。

（６）世界赤十字デー記念イベント

赤十字の創始者であるアンリー・デュナンの生誕日5月8日の「世界赤十字デー」には、毎年全国各地で様々なイベントが行われています。佐賀県支部では、5月に広報活動を集中して実施しました。

（７）日本赤十字社創立150周年プロジェクト

令和4年5月1日に迎える創立150周年に向け、「新しい時代の赤十字」の将来構想策定のため、本社主催のワークショップに推進メンバー及びスタッフが参加し意見交換を行いました。併せて、支部主催により職員向けワークショップを実施し認識統一を図るとともに、JRC 関係者・会員は本社主催の別途ワークショップに参加し、多様な視点からの検討を進めました。

（８）その他の広報活動

赤十字思想の普及、事業の紹介及び周知を図るため、次の広報活動を実施しました。

ア 広報誌等の発行

支部の事業活動を広く県民に知ってもらうため、広報チラシ347,000部を作成し、5月の赤十字運動月間中に県下ほぼ全世帯に配布しました。（新たに遺贈・相続財産や生前整理による寄付案内を掲載）

また、支部発行の機関紙「赤十字さが」92号（春号）を18,200部、93号（秋号）を15,600部作成し、地区・分区を通じ回覧するとともに、有功会会員はじめ赤十字関係者に配布しました。併せて、大阪・関西万博「国際赤十字・赤新月運動館」および本県から派遣した運営スタッフの特集ページを掲載し、更なるブランド力強化に努めました。

本社の発行物として、「赤十字 NEWS（新聞）」1,600部を毎月赤十字関係者に配布し、年2回発行の広報誌「Cross com-BOOK」を会員全員に発送しました。また、本社制作の赤十字運動月間用の広報ポスターやリーフレットを各地区・分区や県内赤十字施設に配布しました。



『赤十字さが』



赤十字 NEWS（新聞）



5月運動月間広報ポスター

イ 赤十字白い羽根シール

小・中・高等学校の児童・生徒に赤十字への理解を深めてもらうため、「赤十字白い羽根シール」を作成し、5月の赤十字運動月間に先立ち配布しました。

なお、令和8年度配布分については、より児童・生徒に親しみを持ってもらえるよう、デザインの刷新に向けた検討を行いました。

ウ プレスリリース・寄稿

新聞、テレビ、ラジオなどの報道機関に対しては、災害時の救護活動情報や義援金・救援金受付や贈呈式の情報の他、海外たすけあい募金の実施に際し、プレスリリースを送付し、随時取材依頼を行いました。

また、情報発信及び防災意識の普及啓発を目的として、佐賀新聞の防災企画「防災さが」において、『日赤通信～「いのち」をまもろう～』を毎月掲載しました。防災・減災に関する内容を中心に、令和5年6月から令和8年3月まで計35回掲載し、令和8年3月をもって終了しました。

佐賀新聞『日赤通信～「いのち」をまもろう～』の記事の内容

掲載月	テーマ
4月	ミャンマー地震1カ月～避難環境改善など引き続き支援必要
5月	熱中症に注意～予防策取り組みやすく
6月	「水害」マイ・タイムライン～「早めに」「安全な場所へ」「避難する」
7月	水の事故防止～水遊びはルールを守って
8月	着衣泳～水の事故から“いのち”を守るために
9月	防災の日～日常から備える防災意識を
10月	子どもの防災～事前の準備で影響を軽減
11月	ヒートショック～事故予防し、安全な入浴を
12月	気道遺物除去～安心安全な年末年始を
1月	避難所の生活環境～健康、安心のポイント“TKB”
2月	災害時の避難行動～「迷わず動ける自分になる」
3月	自助・共助～備え、いのちを守る大きな力に

エ 事業紹介等パネルの活用

赤十字運動月間や地区・分区並びに青少年赤十字加盟校における行事等の際に、支部で作成したパネルを積極的に貸出・展示し、活用しました。

オ ホームページでの情報発信

日本赤十字社佐賀県支部ホームページにて、支部の活動報告の記事を積極的に発信し、12ヶ月で30件掲載しました。

カ 3施設合同 Instagram

佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの3施設合同で運用を行っている『3施設合同 Instagram』では、各施設の活動について最新の情報を発信し、日赤への関心向上に努めました。

令和8年3月1日時点でフォロワー数は1,200人を超えました。



キ 3施設合同広報委員会

佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの若手の職員で構成する3施設合同広報委員会を隔月開催しました。

ク 5月の赤十字運動月間イベント

佐賀県庁において「懸垂幕の掲示」「パネル展示」「広報ビデオの上映」を実施し、赤十字の活動を県民の皆様にも周知しました。また、新しく SAGA アリーナ、NHK 佐賀放送局にご協力いただき県内8カ所にてレッドライトアップを行いました。



懸垂幕の掲示（佐賀県庁）



レッドライトアップ（SAGA アリーナ）

7 赤十字会員及び活動資金の増強

(1) 会員数

一定の会費を納めていただいた会員数は、次のとおりです。

(各年度末現在)

区 分	令和7年度			令和6年度			増減(計)	
	個人	法人	計	個人	法人	計	個人	法人
会 員※1	1,654	684	2,338	1,620	665	2,285	34	19
協力会員※2	204,611	35	204,646	215,755	19	215,774	△11,144	16
合 計	206,265	719	206,984	217,375	684	218,059	△11,110	35

※1 年額2,000円以上の会費を当該年度または前年度にお寄せいただいた個人・法人

※2 目安として年額500円以上2,000円未満の会費を当該年度にお寄せいただいた個人・法人

(2) 有功章社員数及び特別社員数

これまでに有功章及び特別社員章を受章(彰)された方は、次のとおりです。なお、有功章受章(彰)者(個人・法人)は、(1)※1にかかわらず、現「会員」資格を有します。

(令和8年3月31日現在)

区 分	個人	法人	計	令和7年度新規受章(彰)者	
				個人	法人
金色有功章社員※3	239	240	479	7	2
銀色有功章社員※4	399	520	919	13	7
特 別 社 員※5	3,998	1,449	5,447	41	11

※3 総額50万円以上の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人及び役職功労者

※4 総額20万円以上50万円未満の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人及び役職功労者

※5 これまでに総額20万円以上20万円未満の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人

(3) 赤十字会員増強運動

日本赤十字社の多岐にわたる事業活動は、会員をはじめ県民が拠出する「活動資金」によって支えられています。赤十字会員募集は年間を通じて行っていますが、特に、5月を「赤十字会員増強運動月間」として、地区・分区並びに地域の奉仕者をはじめ自治会や町内会など関係各位の協力を得て、会員の確保、活動資金の増強に努めました。

一方、人口減少に伴う自治会会費の減少が見込まれることから、自治体職員への職域募集の開始や建設業協会等への協力呼びかけを行うとともに、新規法人開拓など新たな財源確保の取り組みを進めました。

ア 地区・分区事務長会議

(ア) 第1回 地区・分区事務長会議

・日時：令和7年7月8日(火)

・場所：日本赤十字社佐賀県支部 会議室

令和6年度の事業報告及び一般会計歳入歳出決算について説明を行いました。



(イ) 第2回 地区・分区事務長会議

・日時：令和8年3月3日(火)

・場所：日本赤十字社佐賀県支部 会議室

令和8年度事業計画、令和8年度一般会計歳入歳出予算等について説明を行いました。

イ 新たな財源確保に向けた取り組み

(ア) 自治体職員等への新たな職域寄付の開拓（副市長会・町村会での働きかけ、直接訪問による協力依頼）

(イ) 建設業協会等への組織的な寄付呼びかけ（各地区への展開）

(ウ) 個人向けダイレクトメールの実施（既存協力者・新規会員の開拓）

(エ) 法人訪問の強化及びデータ分析を活用した法人開拓（プランソナーによる有望先抽出）

(オ) 遺贈・相続財産寄付のPR強化（全戸配布チラシ作成、自治体回覧広告掲載、郵便局でのパンフレット設置検討）

(4) 令和7年度活動資金募集実績

ア 総括表

(令和8年3月31日現在) 単位：円

区 分	令和6年度 (A)	令和7年度 (B)	B/A %
一 般 社 資	153,927,019	118,739,642	77.1%
支部扱	56,166,379	22,849,518	40.7%
一 般	14,965,879	22,628,518	151.2%
内 大口 (100万以上)	2,000,000	8,000,000	
使途指定	41,200,500	221,000	0.5%
地区分区扱	97,760,640	95,890,124	98.1%
法 人 社 資	16,807,699	18,299,902	108.9%
支部扱	15,920,409	17,439,567	109.5%
一 般	15,820,409	16,224,567	102.6%
使途指定	100,000	1,215,000	1215.0%
地区分区扱	887,290	860,335	97.0%
計 (1)	170,734,718	137,039,544	80.3%
使途指定計 (2)	41,300,500	1,436,000	3.5%
合計 (1) - (2)	129,434,218	135,603,544	104.8%

イ 支部、地区分区分別実績一覧

	市 町 名	対象世帯 ①	令和7年度目標額	実 績 額(円)				前年度実績 (円)
			(①×600円)	一般	法人	計	前年度 比(%)	金額
			千円未満四捨五入	②	③	②+③		
支 部 扱	個 人		9,500,000	22,849,518		22,849,518	40.7	56,166,379
	法 人		13,557,000		17,439,567	17,439,567	109.5	15,920,409
	計 A		23,057,000	22,849,518	17,439,567	40,289,085	55.9	72,086,788
地 区 分 区 扱	佐 賀 市	65,606	39,364,000	18,020,234		18,020,234	94.7	19,038,726
	唐 津 市	31,134	18,680,000	11,374,464	61,335	11,435,799	106.1	10,779,912
	鳥 栖 市	22,016	13,210,000	6,060,000		6,060,000	96.7	6,267,000
	多 久 市	5,072	3,043,000	3,166,649		3,166,649	99.1	3,196,268
	伊 万 里 市	14,375	8,625,000	5,000,430		5,000,430	96.8	5,167,250
	武 雄 市	13,571	8,143,000	8,587,262		8,587,262	100.0	8,587,039
	鹿 島 市	7,793	4,676,000	4,456,800		4,456,800	100.2	4,449,630
	小 城 市	12,864	7,718,000	7,298,370		7,298,370	99.6	7,329,807
	嬉 野 市	6,766	4,060,000	3,282,250	500,000	3,782,250	99.0	3,822,013
	神 埼 市	8,935	5,361,000	5,023,700		5,023,700	88.7	5,660,800
	市地区計 a	188,132	112,880,000	72,270,159	561,335	72,831,494	98.0	74,298,445
	吉野ヶ里町	4,655	2,793,000	2,565,000		2,565,000	99.5	2,577,900
	基 山 町	5,375	3,225,000	2,616,200		2,616,200	90.1	2,905,200
	み や き 町	7,315	4,389,000	5,042,800		5,042,800	101.1	4,989,400
	上 峰 町	2,792	1,675,000	1,806,700		1,806,700	100.2	1,802,400
	中部管内計	20,137	12,082,000	12,030,700		12,030,700	98.0	12,274,900
	玄 海 町	1,344	806,000	918,400		918,400	111.5	823,800
	北部管内計	1,344	806,000	918,400		918,400	111.5	823,800
	有 田 町	5,485	3,291,000	2,507,800	299,000	2,806,800	95.6	2,934,500
	大 町 町	1,729	1,037,000	1,233,000		1,233,000	98.6	1,251,000
	江 北 町	2,748	1,649,000	1,783,000		1,783,000	97.9	1,821,800
	白 石 町	5,986	3,592,000	3,840,600		3,840,600	98.0	3,917,600
	太 良 町	2,258	1,355,000	1,306,465		1,306,465	98.5	1,325,885
	西部管内計	18,206	10,924,000	10,670,865	299,000	10,969,865	97.5	11,250,785
	町 計 b	39,687	23,812,000	23,619,965	299,000	23,918,965	98.2	24,349,485
	a + b =B	227,819	136,692,000	95,890,124	860,335	96,750,459	98.1	98,647,930
	総 計 A + B	227,819	159,749,000	118,739,642	18,299,902	137,039,544	80.3	170,734,718

8 支部評議員会の開催

(1) 令和7年度第1回支部評議員会 令和7年6月16日（於日赤佐賀県支部）

- 第1号議案 令和6年度 日本赤十字社佐賀県支部事業報告について
- 第2号議案 令和6年度 唐津赤十字病院事業報告について
- 第3号議案 令和6年度 佐賀県赤十字血液センター事業報告について
- 第4号議案 令和6年度 一般会計歳入歳出決算について
- 第5号議案 令和6年度 医療施設特別会計歳入歳出決算について

(2) 令和7年度第2回支部評議員会 令和8年2月10日（於日赤佐賀県支部）

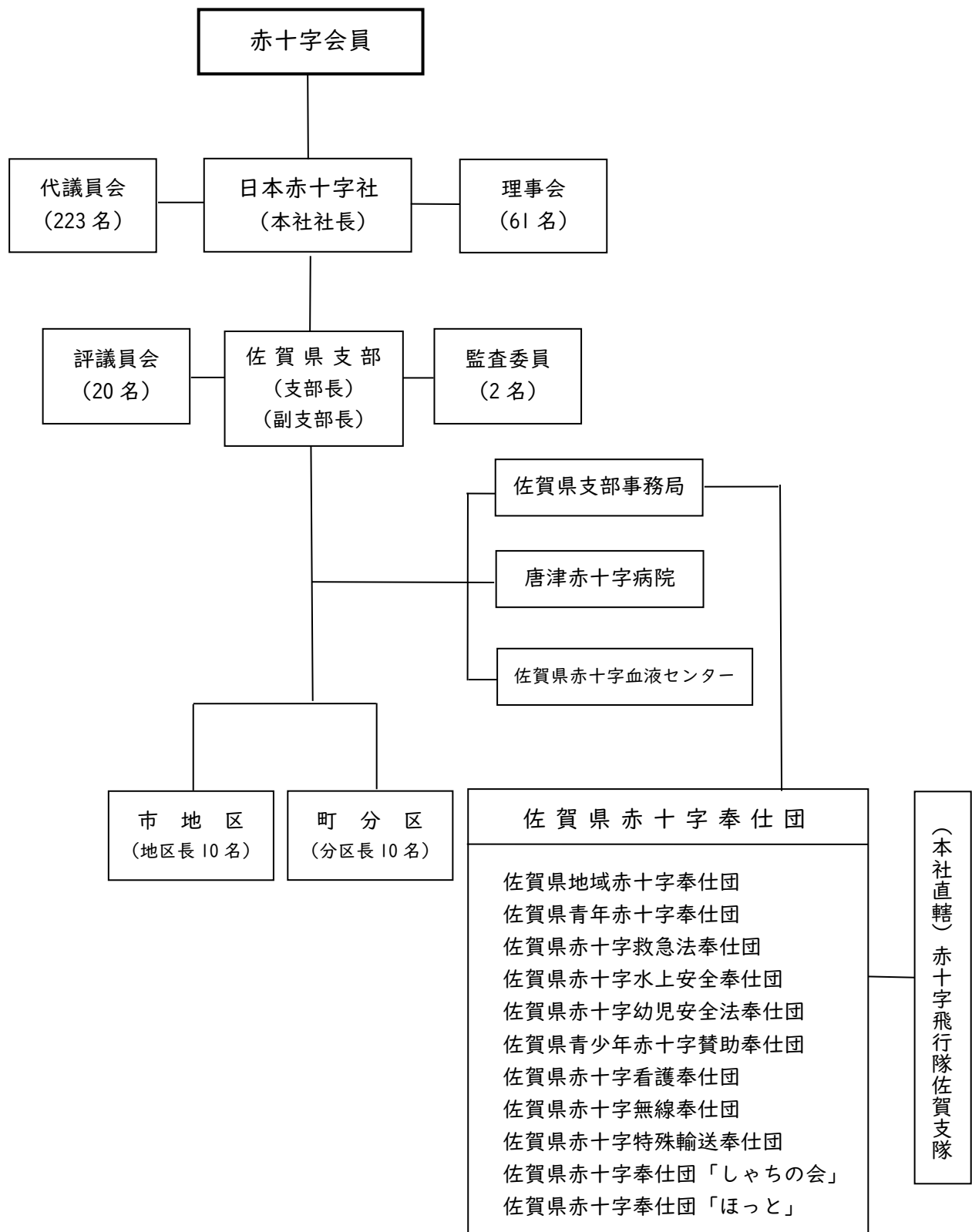
- 第1号議案 令和8年度 日本赤十字社佐賀県支部事業計画について
- 第2号議案 令和8年度 唐津赤十字病院事業計画について
- 第3号議案 令和8年度 佐賀県赤十字血液センター事業計画について
- 第4号議案 令和8年度 一般会計歳入歳出予算について
- 第5号議案 令和8年度 医療施設特別会計歳入歳出予算について



佐賀県支部の組織・役職員

(1) 組 織

(R 8 年 3 月 31 日現在)



(2) 役 職 員

ア 支部役員（R 8 年 3 月 31 日現在）

職 名	氏 名	職 名 等
支部長	山口 祥義	佐賀県知事
副支部長	峰 達郎	唐津市長
	種村 昌也	佐賀県健康福祉部長
支部監査委員	山田 恭輔	江北町長
	堤 和幸	佐賀商工会議所専務理事

イ 佐賀県支部選出本社役員（R 8 年 3 月 31 日現在）

職 名	氏 名	職 名 等
理事・代議員	中富 一榮	久光製薬（株）代表取締役社長
代議員	中山 弘志	（株）中山ホールディングス 代表取締役社長

ウ 佐賀県支部評議員（R 8 年 3 月 31 日現在）

番号	氏 名	支部長・地区選出の別	職 名 等
1	桑原 昇	支部長	株式会社佐賀新聞社論説委員長
2	山口 七重	支部長	佐賀県地域婦人連絡協議会会長 佐賀県地域赤十字奉仕団委員長
3	久保山 善生	支部長	佐賀県社会福祉協議会副会長
4	堤 和幸	支部長	佐賀商工会議所専務理事
5	伊東 博己	佐賀市地区	佐賀市社会福祉協議会会長
6	小城原 直	佐賀市地区	佐賀市自治会協議会会長
7	峰 達郎	唐津市地区	唐津市長
8	向門 慶人	鳥栖市地区	鳥栖市長
9	香月 正則	多久市地区	多久市長
10	深浦 弘信	伊万里市地区	伊万里市長
11	小松 政	武雄市地区	武雄市長
12	松尾 勝利	鹿島市地区	鹿島市長
13	南里 隆	小城市地区	小城市長
14	山口 卓也	嬉野市地区	嬉野市長
15	實松 尊徳	神埼市地区	神埼市長
16	伊東 健吾	佐賀中部地区（神埼郡）	吉野ヶ里町長
17	武廣 勇平	鳥栖地区（三養基郡）	上峰町長
18	脇山 伸太郎	唐津地区（東松浦郡）	玄海町長
19	松尾 佳昭	伊万里地区（西松浦郡）	有田町長
20	山田 恭輔	杵藤地区（杵島郡・藤津郡）	江北町長

任 期 自令和 7 年 2 月 14 日 ～ 至令和 10 年 2 月 13 日

エ 日本赤十字社佐賀県支部事務局（Ｒ８年３月３１日現在）

職 名	氏 名
事務局長	野田 嘉代子
総務課長兼事業推進課長	稲富 鈴子

オ 唐津赤十字病院（Ｒ８年３月３１日現在）

職 名	氏 名	職 名	氏 名
院 長	宮原 正晴	皮膚科部長	（欠）
副 院 長	生田 光	形成外科部長	（欠）
副 院 長	田代 克弥	泌尿器科部長	明利 浩行
副 院 長	園田 信成	産婦人科部長	金井 督之
事務部長	五郎川 展弘	放射線診断科部長	小池 真生子
看護部長	増本 智子	放射線治療科部長	松村 泰成
疾病予防センター長	冨栴 りか	リハビリテーション科部長	仙波 英之
医療安全推進センター長（兼）	生田 光	麻酔科部長	嘉手川 繁登
がん医療推進センター長（兼）	鮫島 隆一郎	救急科部長	中島 厚士
教育研修推進センター長（兼）	長嶋 昭憲	病理診断科部長	明石 道昭
救命救急管理センター長（兼）	中島 厚士	歯科口腔外科部長	（欠）
救命救急センター長（兼）	中島 厚士	薬剤部長（兼）	田代 克弥
患者総合支援センター（兼）	長嶋 昭憲	医療技術部長（兼）	仙波 英之
感染管理室長（兼）	田代 克弥	医療社会事業部長	酒井 正
第１内科部長	野田 隆博	医療技術部技師長	小池 昭男
第２内科部長	長嶋 昭憲	薬剤課長	岩田 和弥
第３内科部長	福島 伯泰	栄養課長	高崎 桂子
感染症内科部長	（欠）	検査技術課長	川内 保彦
循環器内科部長（兼）	園田 信成	放射線技術課長	江口 教久
小児科部長（兼）	田代 克弥	臨床工学技術課長（兼）	小池 昭男
小児科部長	山口 賢一郎	リハビリテーション技術課長	麻生 昭秀
第１外科部長	鮫島 隆一郎	広報推進室長（兼）	佐藤 洋平
第２外科部長	井久保 丹	経営情報課長（兼）	佐藤 洋平
肝胆膵外科部長	神谷 尚彦	事務副部長	徳田 孝久
乳腺外科部長	小原井 朋成	総務課長（兼）	徳田 孝久
呼吸器外科部長	小島 勝雄	会計課長	大森 崇生
整形外科部長（兼）	生田 光	医事課長	松本 英成
眼科部長	緒方 正虎	医療社会事業課長	佐藤 洋平
耳鼻咽喉科部長	（欠）	診療支援課長	野方 宏紀
脳神経外科部長	鈴山 堅志	-	-

カ 佐賀県赤十字血液センター（Ｒ８年３月３１日現在）

職 名	氏 名
所長	鷹野 誠
事業部長	廣畑 和代
総務課長	廣田 聡
献血推進課長	柴木 弘
採血課長	原 香織
学術情報・供給課長	池田 浩
品質情報課長（兼）	廣畑 和代
医務課長	山本 恵子

キ 専任職員数（Ｒ８年３月３１日現在）

施 設 名	職員数
日本赤十字社佐賀県支部	９名
唐津赤十字病院	522名
佐賀県赤十字血液センター	33名

日本赤十字社佐賀県支部の現勢（令和7年度）

1. 沿革

明治22年(1889) 5月28日 日本赤十字社
佐賀県委員部設置
昭和27年(1952) 10月31日 佐賀県支部に改称

2. 会員 個人 206,265人
法人 719法人
(※ 協力会員を含む社資会員)

3. 役員

支部長 山口 祥義（県知事）
副支部長 峰 達郎（唐津市長）
種村 昌也（県健康福祉部長）
評議員 20人（定数）

（本社理事）中富 一榮
（本社代議員）中富 一榮 中山 弘志

4. 青少年赤十字加盟校登録数

幼・保育園	15園	1,368人
小学校	119校	27,606人
中学校	76校	20,643人
義務教育学校	6校	1,870人
高等学校	33校	10,991人
特別支援学校	5校	483人
専修学校	2校	33人
計	256校(園)	62,993人
指導者数	5,707人	

（令和8年3月31日現在）

5. 赤十字奉仕団登録数

地域	17団	1,333人
青年	1団	28人
特殊	9団	219人
計	27団	1,580人

（令和8年3月31日現在）

6. 講習普及活動

区分	指導者	受講者
救急法	76人	3,995人
水上安全法	37人	1,001人
健康生活支援講習	8人	98人
幼児安全法	26人	660人
防災セミナー	20人	2,123人

（令和8年3月31日現在）

7. 災害等救護

救護班	班数	5班	人員	30人
無線局	基地局	4局	移動局	63局
車両等	救急車	2台	災害救援車	7台
	災害連絡車	2台	サベメータ	1台
			線量計	42台
資器材	エア Tent	5張	パイプ Tent	27張
	ド ラ ッ シュ Tent	1張	イー ジー Tent	22張
	医療セット	2組	担架・ベ ッ ト	46台
	NBC 災害除染セット	1組	非常炊き出し釜	22台
救援物資	緊急セット	346セット	安眠セット	384セット
	毛布	1,125枚	非常食	578食
	バスタオル	461セット	ブルーシート	110枚

（令和8年3月31日現在）

8. 医療事業 唐津赤十字病院

施設数	1	診療科	32科	病床数	304床
総患者数	206,935人			1日平均	
入院	91,722人			251人	
外来	115,213人			476人	

（令和8年3月31日現在）

9. 血液事業 佐賀県赤十字血液センター

施設数	1	車両台数	17台
移動献血車（再掲）	2台	献血運搬車（再掲）	7台
献血者数		供給数（単位換算）	
成分献血	13,342人	成分製剤	45,476単位
400mL 献血	20,709人	全血製剤	0単位
200mL 献血	325人	赤血球製剤	33,171単位
計	34,376人	計	78,647単位

（令和8年3月31日現在）

10. 会計（令和7年度歳入歳出決算） 単位：千円

区分	歳入	歳出
日本赤十字社佐賀県支部	191,461	139,131
唐津赤十字病院	10,099,512	9,733,737

11. 佐賀県赤十字有功会（平成9年発足）

会長 中富 一榮
会員数 108（人・法人）

（2026/3/31作成）



救うを託されている。

□ 日本赤十字社佐賀県支部

〒840-0843 佐賀市川原町2番45号

〔TEL〕 0952-25-3108 〔Fax〕 0952-25-4184

□ 唐津赤十字病院

〒847-8588 唐津市和多田2430番

〔TEL〕 0955-72-5111 〔Fax〕 0955-72-9530

□ 佐賀県赤十字血液センター

〒849-0925 佐賀市八丁畷町10番20号

〔TEL〕 0952-32-1011 〔Fax〕 0952-32-2002